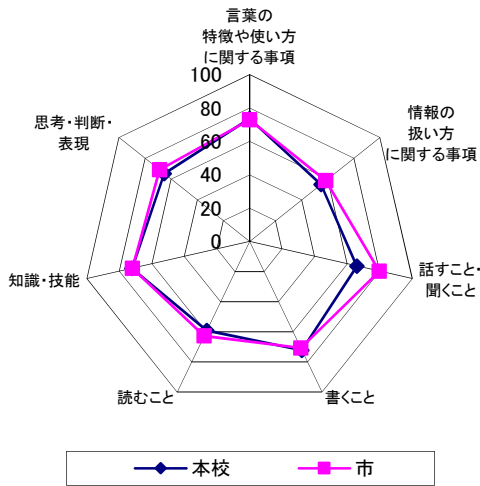


宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.6	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	54.8	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	65.9	79.8	75.9
	書くこと	72.2	70.7	71.7
	読むこと	59.2	62.8	62.5
観点別	知識・技能	72.3	72.0	74.4
	思考・判断・表現	65.3	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

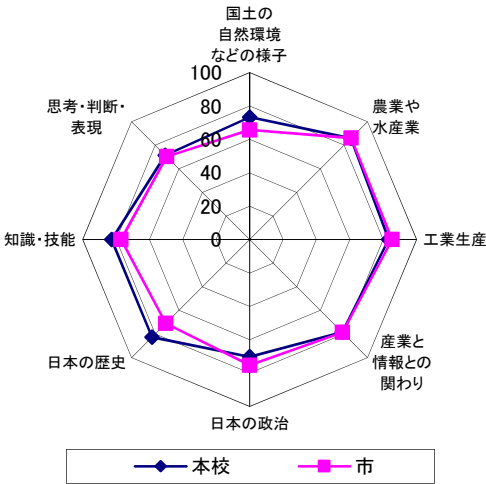
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市平均をやや上回っている。 ○言葉の学習の謙譲語について理解し正しく使うという問題では、正答率が81.0%であり、市の正答率よりも15.8ポイント上回った。 ●同じ読みの漢字を文の中で正しく使う問題では、正答率が42.9%であり、市の正答率より8.6ポイント下回った。	・漢字の読み書きでは、ドリル等を活用しながら正しい漢字の習得につながるよう継続的に取り組む。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるために、授業だけでなく家庭学習でも国語辞典や漢和辞典を利用する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単にまとめて書く問題では、正答率が54.8%であり、市の正答率より3.7ポイント下回った。	・情報を正しく読み取り、理由や事例を挙げる語彙に注目して文章を書けるように、教室に語彙や例文を掲示し習熟を図る。 ・社会科などの他教科においても、資料や情報から読み取ったことを文章で書き表す活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、正答率が90.5%であり、市の正答率より1.5ポイント上回った。 ●考えをまとめるための司会者の工夫を捉える問題では、正答率が52.4%であり、市の正答率より24.3ポイント下回った。	・司会者や発表者などの立場や意図を明確にして、話し合いができるような機会を意図的に取り入れていく。 ・グループ学習やペア学習を積極的に行い、話し手の意図を聞き取ったり、自分の考えを話したりする機会を増やし、話すこと・聞くことへの指導の充実をさらに図る。
書くこと	平均正答率は、市平均を上回っている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で書く問題では、正答率が76.2%であり、市の正答率より10.6ポイント上回った。 ●賛成しない意見への反論を書く問題では、正答率66.7%、市の正答率より4.1ポイント下回った。	・国語以外の教科でも自分の考えを文章で表現できるよう、意図的に文を書く機会を作るようにする。 ・字数や段落構成など与えられた条件の中で文を書くという活動を取り入れ、書くことに対する苦手意識を取り払い慣れ親しむような指導を行う。
読むこと	平均正答率は、市平均をやや下回っている。 ○物語文の全体像を具体的に想像する問題では、正答率が85.7%であり、市の正答率より5ポイント上回った。 ●説明文の内容を読み取る問題では、正答率が38.1%であり、市の正答率より18.4ポイント下回った。	・説明されている事例をおさえながら、筆者の考えを正しく読み取ることができるよう、段落構成や論の進め方などを捉えながら読む指導を行う。 ・朝の読書の時間を有効に使い、学級文庫で様々なジャンルの本を読めるような環境を整え、自然に読書に親しめるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.3	65.7	67.0
	農業や水産業	85.7	86.1	77.5
	工業生産	83.3	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	78.6	78.6	69.6
	日本の政治	70.2	75.2	65.8
	日本の歴史	82.7	71.1	69.1
観点別	知識・技能	82.6	77.0	72.8
	思考・判断・表現	71.4	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

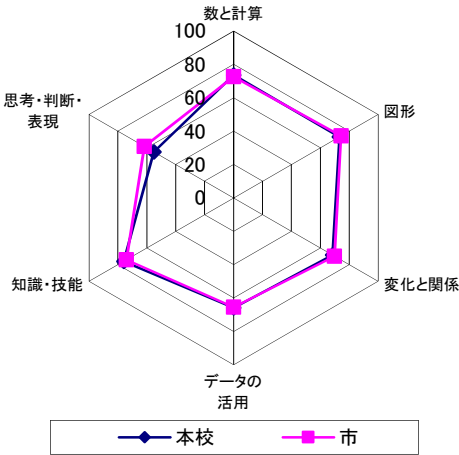
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市平均を上回っている。 ○日本の周辺の海洋名について答える問題では、正答率が85.7%であり、市の正答率を15.9ポイント上回っている。 ●日本の気候に着目し、雨温図から都市を読み取る問題の正答率は23.8%であり、市の正答率を14.9ポイント下回った。	・日本の地図や地球儀、資料などから必要な情報を集めて読み取り、白地図などに適切にまとめる活動を取り入れる。 ・地形条件から見て特色ある地域の日常生活の様子や、地形の特色を生かした産業の工夫について具体的に調べ、地形条件と人々の生活や産業との関連について考えさせるよう指導する。
農業や水産業	平均正答率は、市平均をやや下回っている。 ○米作りの作業の理解をもとに資料を読み取る問題では、正答率が95.2%で市の正答率を12.6ポイント上回った。 ●食料生産に関する地図を読み取る問題では、正答率が76.2%で市の正答率を10.4ポイント下回った。	・地図や統計資料などを効果的に活用して調べることを通して、それが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深い関わりをもって営まれていることについてまとめる活動を取り入れる。
工業生産	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●日本の自動車生産について、電気自動車とガソリン車を比較して考える問題では、正答率が76.2%で市の正答率を2.2ポイント下回った。	・我が国の自動車生産と国民生活との関わりについて、学習問題を見だし、それについて予想を立てたり、調べたり、話し合ったりする活動を取り入れ、自分なりに考えたり、まとめたり、発表したりする活動を取り入れる。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市平均と同等である。 ○情報産業の役割や責任の大きさについて判断する問題では、正答率が71.4%で市の正答率を5.7ポイント上回った。 ●情報の正しい受け取り方を理解する問題では正答率が85.7%で市の正答率より5.9ポイント下回った。	・情報を発信する側に求められる役割と責任の大きさ、情報を受け取る側の正しい判断の必要性について考えをまとめさせ、情報が国民生活に大きな影響を与えていることに気付かせるような指導をする。
日本の政治	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○日本国憲法に着目し、国民の義務を答える問題では、正答率が90.5%で市の正答率を3ポイント上回った。 ●三審制について答える問題においては、正答率が61.9%で市の正答率を14.7ポイント下回った。	・政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを捉え、議会政治の働きや選挙の意味、租税の役割、三権相互の関連など国の政治の働きを理解させる。 ・新聞やニュースなど社会の動きに興味をもたせるような声かけ、掲示物の作成などを行う。
日本の歴史	平均正答率は、市平均を上回っている。 ○縄文時代～室町時代まで全ての問題において市の正答率を4.5～22ポイント上回っている。	・我が国の先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心を持ち、主な歴史的事象について理解を深め、日本の歴史や伝統を大切にしようとする心情を育てるよう指導を継続する。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.6	72.6	71.6
	図形	73.2	74.4	72.0
	変化と関係	68.6	69.8	62.6
	データの活用	65.9	65.5	59.1
観点別	知識・技能	76.0	74.1	68.9
	思考・判断・表現	55.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

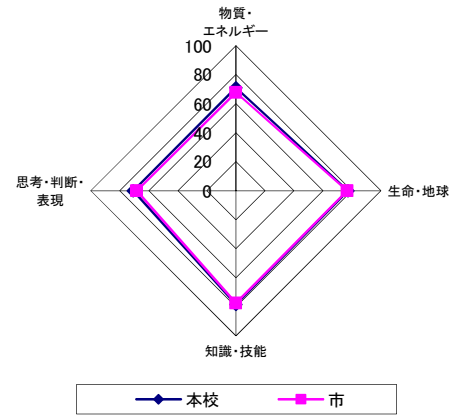
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均をやや上回っている。 ○小数のかけ算、わり算、分数のたし算、ひき算、かけ算の基本的な計算問題では、正答率が85%以上であり、すべて市の正答率を上回った。 ●分数の除法の文章問題にあった図を選ぶ問題では、正答率が33.3%で市の正答率を30.8ポイント下回った。	・分数÷分数の計算の仕方について、除法の性質や比例の考えを基に考え、数直線や式などを用いて説明する時間を十分にとる。
図形	平均正答率は、市平均をやや下回っている。 ○台形の面積を求める問題では、正答率が85.7%であり市の正答率を10.2ポイント上回った。 ●2つの角が与えられたときの三角形の1つの外角を求める問題では、正答率が57.1%で市の正答率を14.6ポイント下回った。	・三角形の内角の和は180°であることを理解し、計算で三角形の角の大きさを求めるだけでなく、三角形の内角の和を、いろいろな三角形の角の大きさを調べたり、いろいろな三角形の3つの角を1つの点に集めたりすることを通して考えさせ、説明できるような指導に重点をおく。
変化と関係	平均正答率は、市平均をやや下回っている。 ○兄が走る時間と弟が走る速さから、弟が走る距離を判断して記述式で答える問題では、正答率が52.4%で市の正答率を10.4ポイント上回った。 ●値に0がある分離量の平均を求める問題では、正答率が61.9%で市の正答率より19.1ポイント下回った。	・平均の学習の際に、「ならす」ということの経験や意味についての話し合いを十分に行う。その上で、平均を求める目的に応じて0も含めて平均を求めることや、分離量の場合も平均の値を小数で表してよいことを理解させる。
データの活用	平均正答率は、市平均とほぼ同等である。 ○データの見方では、最頻値を答える問題で正答率が76.2%で市の正答率を23.4ポイント上回った。 ●棒グラフを読み取る問題においては、正答率が61.9%で市の正答率を8.6ポイント下回った。	・いろいろなグラフを見て、既習のグラフとの違いを考え、特徴を読み取る指導を十分に行う。統計的な問題解決のために、これまで学習したことを生かし、活用しようとする態度を育てる。算数だけでなく、社会科などとの関連を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.0	67.8	64.1
	生命・地球	77.2	76.7	78.3
観点別	知識・技能	78.3	77.4	78.3
	思考・判断・表現	70.7	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均を上回っている。 ○電磁石が鉄を引き付けたり放したりできる理由を考える問題では、正答率が100%で市の正答率を16.9ポイント上回った。 ○物の燃え方に関する問題では、知識を問う問題と考え方を問う問題において、1問ずつ市の正答率を5ポイント以上上回った。 ●ふりこの糸の長さで一往復する時間について記述式で答える問題では、正答率が33.3%であり市の正答率を11ポイント下回った。 ●火が消える理由を記述する活用型の問題では、本校の正答率は52.4%と市の平均を3.1ポイント下回った	・予想や仮説を基に実験を行い、得られた結果を基に考察し、理解したことを自分の言葉でまとめるような時間を十分にとる。 ・ふりこの周期には長さだけが関係すること、その他の条件であるふれ幅やおもりの重さは関係しないことをしっかり理解できるよう、実験の結果から考察する時間をじっくりと取るとともに、復習も行って定着を図る。
生命・地球	平均正答率は、市平均をやや上回っている。 ○春の日本付近の天気の変わり方を答える問題では、正答率が66.7%で市の正答率を13.5ポイント上回った。 ○動物のからだのつくりとはたらきに関する問題では、3問全てで市の正答率を上回った。 ○気体検知管に関する問題では、正答率が100%で、市の正答率を12.1ポイント上回った。 ●台風接近中の不適切な行動を指摘する問題では、正答率が85.7%で市の正答率を5.7ポイント下回った。 ●植物のつくりとはたらきの予想と結果のつながりを問う問題で61.9%、生物とかんきょうの実験	・天気の変化や台風接近について、気象衛星の雲画像や雨量情報などの資料を結び付けて考えられるよう指導する。また、天気の変化について学んだことを今後の学習や生活に生かせるよう助言する。 ・実験や観察の経過と結果を図や言葉を使って記録する活動を取り入れていくことで、経験を知識として覚えるのではなく、考え方も含めて身に付けて行けるように学習活動を設定する。

宇都宮市立上河内東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあて、まとめ、ふりかえりの確認と徹底	児童が課題を受け止め、見通しをもって学習に取り組み、授業の終わりには自らの学習を振り返る時間を確保できるようにしている。	全学年で「勉強が好きか」という項目や各教科の学習において「好き」と答えた児童の割合については、学年間でばらつきが見られた。3年生以上の「学校の授業が分かりますか」という設問には、肯定的に回答した児童の割合は9割を超えている。
家庭学習の習慣化	上河内地域学校園での共通指導項目である「ゆずっこのきまり」の一つである家庭学習の習慣化を図るために、宿題以外にも自ら進んで自主学習をするように指導している。	6年生は「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」という設問において、肯定割合が85%以上で市より6.7ポイント高い。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・ 6年生の市の調査において、問題や資料から読み取って理解したことなどを自分の言葉で説明するという記述式の設問や、話し合いの内容を聞き取る問題において、やや課題が見られた。授業等で資料をもとに読み取ったことを説明したり、書いて表現したりするなど、言語活動の充実を図っていきたい。
- ・ 「宿題はきちんとやっている」「宿題はきちんとやり期限までに出している」という設問において、全学年肯定割合が9割以上となっている。「自分から進んで勉強している」という設問においては、肯定割合が8割以上となっている。今後も家庭学習を効果的に進めていけるよう、学習の仕方を例示したり、進んで学習している児童のやり方を紹介したりし、家庭と連携しながら継続指導していきたい。